

京まち工房 71



京都の伝統文化を守るために

当コーナーでは、商品の売り上げの一部が京町家まちづくりファンドへの寄附となる寄附付き商品を取り扱っていただいている企業をご紹介します。今回は、寄附付き京町家模型（みにちゅあーと・キット）を取り扱っていただいている株式会社さんけい 代表取締役 勝見文子さん、寄附付き自動販売機の設置にご協力いただいている株式会社ホリバコミュニティ 取締役 統括部長 富嶋真二さんにお話を伺いました。

●株式会社さんけい 代表取締役 勝見文子さん

Q 京町家の模型製作を通じた地域貢献について

私も先代も京都育ちで、京都に縁があって京町家の模型を作り始めることになりました。町家の特徴である屋根のむくり（中央をわずかに上げる配慮）や格子の形、色、質感などをきちんと再現するためには、高い技術と新築当時の建物の特徴を把握することが必要です。

最近では、「子供の頃に住んでいた思い出の詰まった住まいを残したいが、やむを得ず解体しなければならぬため、せめて模型という形で残したい」というご相談を受けることがあります。その場合、現地調査や住まいに刻まれた情報を

収集することが不可欠ですが、それらを通じて、忘れていたご家族の思い出が蘇り、幸せの記憶を残すことができます。

模型は作って楽しむだけでなく、大きな役割を持っています。万が一のことが起きた場合、模型をもとに町並みや建物を復元することも可能です。これからも、京町家の模型製作を通じて、京都の暮らしの文化を形として残していければ幸いです。



京都の町並み模型



寄附付き京町家模型 (1/220スケール)

●株式会社ホリバコミュニティ 取締役 統括部長 富嶋真二さん

Q 御社にとって社会貢献とは？

HORIBAは、社是「おもしろおかしく」のもと、創業以来、京都の伝統・文化・考え方をしっかりと反映した“ほんまもん”の製品を社会に提供しています。エネルギー・健康・環境・安全に関連する製品をグローバルに提供しており、それが社会貢献につながると考えています。



寄附付き自動販売機

Q 京都に対する想いは？

現在、HORIBAは34の海外グループ会社を有していますが、京都のブランド力は高く、京都に本社があることが、自社グループに対する高いリスペクトにつながっていることを実感しています。京町家まちづくりファンド事業については、設立時の趣旨を貫き、今後も京町家の保全・再生を通じて、京都の伝統文化を守り、我々の誇りを形として残していただきたいと思います。

平成 27 年度賛助会員募集中！

入会をご希望の方はまちセンにお問合せいただくか、ホームページをご覧ください。

京都市景観・まちづくりセンター 賛助会員募集 検索

賛助会員には、以下の特典があります。

- 特典1 ニュースレター「京まち工房」(季刊・年4回)
- 特典2 各種セミナー参加のご案内(随時)
- 特典3 ホームページへのバナー掲載(回体会員)

年会費

- 個人1口 5,000円
- 団体1口 50,000円

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

京都市景観・まちづくりセンター

〒600-8127

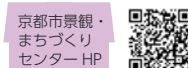
京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町 83 番地の 1

(河原町五条下る東側) ひと・まち交流館 京都 地下1階

TEL: 075-354-8701 FAX: 075-354-8704

E-mail: machi.info@hitomachi-kyoto.jp

http://machi.hitomachi-kyoto.jp/



京都市景観・まちづくりセンターHP

開館時間 平日・土曜 9:00～21:30
日曜・祝日 9:00～17:00

休館日 毎月第3火曜(国民の祝日にあたるときは翌日)
年末年始(12月29日～1月4日)

交通 バス 市バス4・17・205号系統「河原町正面」下車
電車 京阪電車「清水五条」下車 徒歩8分
地下鉄烏丸線「五条」下車 徒歩10分



センターへお越しの際は公共交通機関をご利用ください。

公益財団法人京都市景観・まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。



元吉町まちづくり部始動！
まちづくりの新たな息吹き！

特集 P2-3

P4-5 “京都を彩る”京町家

P7 地域まちづくり・京町家の専門家紹介

P10 図書コーナーからのお知らせ

P6 旧村西家住宅から京町家の魅力を発信！

P8-9 景観・まちづくり大学

P11 私と京都スタッフのつぶやき

元吉町まちづくり部

～ まちづくりの新たな息吹き ～

元吉町ってどんなところ？

四条縄手を上がった東側に位置する「元吉町」（弥栄学区）は、通称・祇園新橋エリアとして知られ、多くの観光客が訪れる異橋や辰巳稲荷、吉井勇の「かにかくにの歌碑」に代表される、歴史的な風情を残す地域です。

元吉町データ

居住人口:42人
世帯数:19世帯
戸数:51戸
(平成26年京都市住民基本台帳および町内会調べ)



※伝統的建造物群保存地区（伝建地区）：文化財保護法に基づき、全国各地に残る歴史的な集落・町並みで特に価値の高いものとして保存するため定められた地区



新橋通から見た風景



辰巳稲荷&異橋周辺



かにかくにの碑周辺

まちづくりのきっかけ

町内会で現状の把握について意見交換会を行っていたところ、以下のような意見が挙げられました。

元吉町の良いところと課題は？

良いところ

- 京都のよさが感じられる地域。
- 都会だが自然と四季を感じられる。
- お稲荷さんや地藏盆など、町内の人が集まる機会が年5回ほどあり、人の繋がりがある。
- 便利な立地（病院、交通など）。
- 敷居が高いイメージがあるが、そうでもない。
- 落ち着いた雰囲気が魅力。
- 景観をよくするための協力意識。

課題

- 生活者の課題（安心安全／空き家が増えた・知合いが減った・夜間の治安が心配など）
- お商売に関する課題（業種の多様化など）
- 来訪客などに関する課題（マナーの悪化／私有地への立ち入り・ゴミの放置など）
- ゴミ問題（時間外のゴミ出し・ゴミの放置など）
- 景観上の課題（電線・石畳の傷み・景観の広域規制など）
- その他（地域交流などソフト面での取組が不十分など）

（意見交換会で出た内容から抜粋）

京都らしい風情を多く残す一方で、生活者・事業者・来訪客など多くの人が関わる地域性から、さまざまな課題を抱えていることがわかりました。そこで、風情ある落ち着いた町並みを将来へ引き継ぎ、より住みやすく、お商売のしやすい町を目指し、町内の有志が集まり、まちづくりの取組が始まりました。

「元吉町まちづくり部」ができるまで

取組の第一段階として、まず地域の方にとって参加しやすい「場づくり」から始めていきました。意見交換会・勉強会の開催時間を工夫するなどして、できるだけ多くの人に参加できる行事をつくり、町内や近隣の方が顔を合わせ

る機会を増やしていきました。これらの活動を通して、気軽に参加してもらい、元吉町と祇園新橋の将来像について皆で考えていく組織をつくりたいという思いが芽生え、「元吉町まちづくり部」を発足するに至りました。

頭を使って考える活動



意見交換会（月1回程度）
「町内での困りごと」など、毎回テーマを決めて、日ごろの思いを出し合う会を開催しています。

ここでの意見から、取り組んでみたい活動のアイデアが生まれました。

勉強会（2回開催）
専門家による、伝建地区や、地域のルールづくりに関する勉強会を開催。

自分たちの町への理解や、まちづくりの知識を、地域全体で深めています。

身体を動かす活動



まちづくりニュースの発行
会に参加できなかった方や、近隣地域の方にも活動を知っていただくため、定期的にまちづくりニュースを発行。

地域の人の紹介欄を設け、近所の方の顔を知る機会も作っています。

清掃活動「白川のお掃除」
意見交換会の中で、参加者の多くが、白川のゴミ問題を気にかけていたことが判明し、有志によるお掃除を敢行。

地域の方でも初めてという体験に、楽しみながら活動をしました。

このような活動を経て

2015年4月22日
元吉町まちづくり部 発足！

「活動内容が想像できる名称にしたい。町内会公認の独立組織というスタンスで、より具体的で実践的な活動を行っていききたい。『まちづくり』を堅く考えず、気軽に参加して欲しい」という思いを込めて名づけられました。



富田 貫之さん
(元吉町まちづくり部 部長)

いい意味で、元吉町は昼と夜とふたつの顔がありますので、暮らしやすく商売しやすい町にしていきたいです。昔ながらの職住一体の京町家のように、町全体を一つの家に見立て、大きな屋根の下で生活と商売が共存し、それが町の継続にも繋がっていくんだ、という意識が共有されるといいですね。

5月には、町内だけでなく、周辺地域の方を交え、元吉町まちづくり部懇親会が開催されました。和やかな雰囲気の中にも、地域に対する熱い想いが伝わってきました。

元吉町のまちづくりはスタートしたばかりで、これからが本番です。まちセンでは、専門家との橋渡しや意見交換会のお手伝いなど、自立的なまちづくりに向けてサポートしています。



「元吉町まちづくり部」今後の展開

今後は、これらの活動を通して、参加者一人ひとりの想いを拾い上げ、地域全体で目指していきたい将来像を少しずつ明確にし、共有していく予定です。また、元吉町内だけの活動にとどまらず、景観まちづくりの取組に力

を入れる西之町や元町など周辺地域との連携や、祇園新橋エリアとして、お隣の末吉町・清本町・橋本町にも取組の輪を広げ、京都らしい景観を守る地域づくりを実践していきたいと考えています。



“京都を彩る”京町家

「京都を彩る建物や庭園」としてまちセンが推薦した建物が、選定されましたのでご紹介します！



「京都を彩る建物や庭園」制度とは？

京都市が実施している制度で、市民が京都の財産として残したいと思う建物や庭園を、公募によりリスト化するものです。世代を超えて継承される建物や庭園を、市民ぐるみで京都の歴史や文化の象徴として残そうという気運を高め、さまざまな活用を進めることなどにより、維持・継承を図るものです。推薦のあった建物は審査会を経て「選定」されます。

be京都

同志社大学新町キャンパスの北側に位置し、門跡寺院である浄土宗派「光照院」に隣接して立地する、築約180年以上、江戸期からの歴史を持つ京町家です。空き家だったこの京町家を、株式会社ステーションが、平成18年度、京町家まちづくりファンド改修助成モデル事業の選定を受け、貸しギャラリー兼イベントスペースとして再生しました。

間口4間の大型町家で、光照院の山門と連続した美しい景観を形作っています。また、改修後は、習い事教室や毎月第2土・日・月に開催される手作り市など、幅広く市民に開かれた文化発信の拠点となっています。



写真提供：be京都

これからも大切にしていきたいです



館長 岡元さん

友田家

棟木に明治45年竣工の記録があり、100年以上前に二代前のご当主が建築された京町家です。江戸時代末期に滋賀県から京都に移り住み、当時は米屋を営んでおられたそうです。大正時代に店をたためた以降は、住宅として大切に住まれてきました。外観は虫籠窓がアルミサッシに改修されるなど一部改変されていましたが、平成25年から26年にかけて改修・復原されています。内装に関しても、随所に上質な材料が用いられており、全体としても良好な保存状態です。その立地から人目にも付きやすく、大宮通の景観に大きく寄与しており、大切にしたい建物です。



友田さんご夫妻

宮岡家

間口5間、木造厨子2階建の間口が大きい町家です。現時点で建築年代を特定できる資料はありませんが、階高が低く、虫籠窓がある厨子2階建の様式から明治後期の建築と考えられます。外観は1階部分が大幅に改変されていましたが、平成25年に改修され、京町家としての風情をより感じられるようになりました。また、外観だけでなく内装も、火袋を復原するなど当初の趣を感じられるよう改修されました。ファサードの改修が行われ、間口も大きいため下立売通の景観に大きく寄与しています。また、京町家の修景という観点から、この地域のお手本となってほしい建物です。



宮岡さんご夫妻

駿河屋伏見稲荷支店

駿河屋伏見稲荷支店は、現ご当主の祖父が「総本家駿河屋」に奉公し、のれん分けをして開業した和菓子店です。現在も薪を使って銅鍋で餡子や羊羹を炊く昔ながらの製法を守り、建物の外観や店内の様子も創業当時からほとんど変わっていません。

漆喰壁と木瓜型の虫籠窓が特徴的な外観と、昔ながらの棚やショーケースに菓子類が並ぶ店の間は、弁柄で仕上げられた重厚な天井や柱などとあいまって創業80年の風格を醸し出すと同時に、明るく親しみやすい雰囲気を持っています。伏見稲荷大社に近接する立地から、界わいの賑わいを守るものとして大切にしたい建物です。



駿河屋ご店主
山村さんご夫妻



この制度で選定された建物のほかにも、京都市内には京町家をはじめとする魅力的な建物が数多くあります。まちセンは、歴史ある建物と暮らしの文化を継承していくために、所有者の方々とのつながりを深め、広く紹介・発信していくことで、これらが市民の財産としても大切にされていくことを願っています。

まちセンでは、さまざまな事業で京町家の保全、再生、継承を支援しています

京町家まちづくりファンド



皆様からのご寄附をもとに、京町家の京都の暮らしの文化、空間の文化、まちづくりの文化を象徴する京町家の再生を支援しています。

京町家カルテ

京都の伝統と暮らしの文化を伝える京町家の価値を明らかにし、良好な歴史資産として継承していくことを目的に、京町家カルテの発行を行っています。京町家の価値を「基礎情報」「文化情報」「建物情報」「間取図」の構成でまとめ、所有者やその関係者の認識を深め、適切に維持・管理・継承されていくことを目指しています。

京町家なんでも相談

京町家の維持・継承に伴うさまざまな悩みや不安の解消に向けて、無料で相談を受け付けています。窓口などで気軽にご相談いただける「京町家一般相談」と、京町家に関し特別な知識を有する相談員とともに実際に京町家に伺ってご相談に応じる「京町家専門相談」があります。



旧村西家住宅 京町家の魅力を発信!

旧村西家住宅はその修復に、平成24年2月、米国のワールド・モノメント財団の支援を受け、所有者、活用者、NPO法人京町家再生研究会、まちセンが協働し、京町家再生プロジェクトとして再生に取り組んでいます。平成26年末まで、美術館として利用されていましたが、平成27年4月、京都旅行の企画プロデュース、京都散策の案内、京都学講座の主催・講演などの事業を展開している「株式会社らくたび」の事務所、講座などの場として、新たに活用されることになりました。

新緑が芽吹き始めた4月初旬、「らくたび京町家」として新しいスタートを切った旧村西家住宅にてお披露目会が催され、約150名の方々がお祝いに駆けつけました。

錦市場や六角堂にも程近い「まちなか」にある京町家の魅力を活かし、四季折々の年中行事や生活文化を身近に感じる場として、文化や歴史に造詣の深い方々はもちろん、観光客や修学旅行生にも開かれた京町家となりそうです。平成27年8月30日(日)には、株式会社らくたびとまちセンの共催で、京町家再生セミナーをらくたび京町家で開催します。是非お越し下さい。(P8-9 参照)

お披露目会の様子



旧村西家住宅
(国登録有形文化財、景観重要建造物、歴史的風致形成建造物)



コラム

京に学ぶ“くらしの文化” 第1回

「町家の衣替え」

人の「衣替え」と同じように、町家も季節に合わせて「建具替え」を行います。夏は、襖・障子を簾戸や御簾などに替えることで涼をとります。京町家はいわゆる「うなぎの寝床」で、奥行き深い造りのため、窓を開け放つと風が通ります。それだけではなく、坪庭があることで室内との温度差が生まれ、さらに空気が流れるようになります。

また、建具以外にも、とうむしろ 簾、とうあじろ 藤網代の敷物や打ち水といった方法で暑さを凌いできました。



気候や生活様式など、町家が建てられた当時とはいろいろな面で違いがあり、全く同じ生活を送るのは厳しいかもしれません。ただ、こうした先人の智慧を学んだ上で、自分たちなりの暮らしのあり方を考えていきたいですね。

建具替え中



藤網代を敷くと一気に涼しげな雰囲気



写真提供：四条京町家

第1回 地域まちづくり・京町家の専門家紹介

ここちよいまちづくりを目指して ～京都のまちづくりに接した40年を振り返る～

まちセンでは、多くの専門家の方々のご協力のもと、地域のまちづくりや京町家の保全・再生に関わる事業を行っています。そこで当コーナーでは、深い知識や多くの経験、また熱い思いをもって京都の町に関わっておられる専門家のみなさんをご紹介します!

今回はこの方!



石本 幸良氏(京・まち・ねっと)

これまでにさまざまな地域まちづくり活動に参加してこられた、経験豊富な方です。住民のみなさんと一緒になって、さまざまな立場や思いを認めつつ、その町の「ここちよさ」を常に追い求めておられます。まちセンがまちづくり活動の支援を行っている多くの地域でも、専門家として共に活動頂いています。

京都へのあこがれ

幼い頃から京都にあこがれ、福井県武生市(現在の越前市)から京都の大学に入り、それから43年京都の町に包まれ、関わってきました。学生時代の自主ゼミでは「伏見の酒蔵と町家」第13回全国町並みゼミ京都大会(平成2年)を取り上げ、実測調査や保存計画案作成に取り組みしました。その時に提案した酒蔵活用イメージ図が、後に月桂冠の大倉記念館実現に役立ったと聞きました。

28歳の時都市計画コンサルタント事務所に就職し、伏見の町と再会します。昭和57年には「伏見町並み通信社」の一員として酒造保存活動に参加し、また、まちづくり市民団体「伏見のまちづくりを考える研究会」を設立して町並み保存運動に参加しました。「伏見まちづくり館」を拠点に体験した、市民まちづくり運動の原点となる数多くの活動が、私のまちづくりプランナーとしての基盤となりました。

伏見の活動が休会した現在も、商店街活性化やまちづくりルールづくりの支援で伏見に通い続けています。

まちづくりを語る言葉との出会い

私がまちづくり活動を始めた昭和50年代後半は、環境問題やマンション建設による町並みや住環境の変化に対する反対運動が主流でした。しかし、目の前の問題が一段落したとき、運動は下火になります。私は敗北感や不信感が町を覆うことを目にし、まちづくり活動に対する葛藤の日々が続きました。そんな折、先達からの示唆に富んだアドバイスに接しました。

延藤安弘先生の書籍『何をめざして生きるんや』の中で「土のひとと風の人の交りあいが新しい風土を作る」との話に接し、なかでも「風の人に不可欠なその場の呼吸をつかむ“瞬間芸”」という言葉に、まちづくりにおけるプランナーの立ち位置を考



第13回全国町並みゼミ京都大会(平成2年)

え続けることを学びました。

まちづくりの現場で活動を共にした高田光雄先生の言葉、「権利調整型から価値共有型のまちづくりへの転換」で、自分のまちづくりの基本姿勢を発見できました。

20世紀から21世紀への過渡期に「美しい都市とは」と問い続けていた時には、宮本憲一先生から、関一元大阪市長の「都市計画の目的は我々の住居する都市を『住み心地よき都市』たらしめんとするに在る」との言葉を教えていただき、これをきっかけに「ここちよいまちづくり」が私の基本となりました。

ここちよいまちづくりを目指して

現在は、住民のみなさんと共に「町のここちよさ」を追い求めています。「まちづくりは合意が基本」と言いますが、さまざまな立場、思いが違う住民が共存する町で、「互いの違いを認め合



第1回「せいつ住まい交流会」(平成18年)

いながら、ゆるやかに共に暮らす」方が、持続的なまちづくりにつながるかと確信しました。

そのためにみんなが共有できる町の将来イメージ「まちづくりビジョン」の共有を目指した取組を必ず最初に取り組みしています。これまでに「姉小路界限町式目」「三条小橋商店街町定め」「伏見納屋町おだいどこ宣言」「小出石町十二門暮し」「大原戸寺花の里めでたいづくし宣言」「河原町ぶらり宣言」など、多くのビジョンを地域のみなさんと共有してきました。

これからの取組

40年余の私のまちづくり活動は、多くの町と多くの人の教えと支援によって成長してきました。60歳を超えた今、京都の町に育てて頂いたこの経験を、まちづくりを目指すプランナーにどのように伝え、彼らの成長をどのように見守るかが、これからの私の役割と考えています。まちづくりプランナーが京都の町に根差し、心地よくまちづくり活動に専念できる環境づくりをできればと願っています。

写真提供：石本幸良氏

景観・まちづくり大学

景観・まちづくり大学は、京都のまちづくりに関心のある人が集い、語り、交流する場です。
共に学び、共に育つ…。元気な町への一歩、あなたから始めませんか。

京のまちづくり史セミナー

平成27年
3月2日月

先斗町、神楽坂、そして新潟古町： 花街の建築と都市空間

講師：松井 大輔氏（新潟大学工学部助教）



近年、伝統文化の集積地として花街が注目されています。花街を象徴する茶屋や料亭は少なくなっていますが、全国各地で、花街らしさを活かしたまちづくりが行われるようになりました。今回は、先斗町、神楽坂、新潟古町を取り上げて、それぞれの花街の歴史と現在のまちづくりの取組についてお話していただきました。

先斗町の歴史は、鴨川右岸の石垣護岸が完成した1670年頃にさかのぼり、先斗町通の両側に茶屋建築の町並みが形成されました。現在では、地域景観づくり協議会制度や昔の町を知る人々からのヒアリングを通じて、

先斗町らしい町並みづくりが行われています。武家屋敷の跡地に成立した神楽坂は、現在も路地のなかに花街建築が見られ、NPOを中心に花柳界文化の発信に取り組んでいます。江戸中期に起源を持つ新潟古町にも多くの料亭があり、株式会社による置屋運営といった新しい取組が行われています。

最後に、歴史や町の規模、建築様式も異なる花街においては、他の花街の真似ではなく地域の特性を把握し、それぞれの特性を活かすまちづくりを進めていく必要があることを今後の方向性として示していただきました。

都市史の中でも、特に住民の自立した活動としてのまちづくりの変遷を学ぶ講座です。

まちづくり実践塾

平成27年
2月19日木

寄附を通じた地域まちづくり ～市民性溢れる持続可能な地域社会を目指して～

講師：深尾 昌峰氏（公益財団法人 京都地域創造基金 理事長）



地域まちづくり活動を持続的に運営していく上で主な課題に挙げられる資金調達。今回では、その解決策のひとつとしての「寄附」の可能性について、お話していただきました。

まず「寄附を募ってもなかなか集まらない」という声もある現状に対しては、寄附文化が根付いていないのではなく、伝え方の問題であり、自身の事業の意義や、今その事業を行う理由、実現のためにいつまでにいくら必要であるかなどを明確にすることが必要とのことでした。

また、実際何らかの形で社会貢献をしたいという思いを

持つ人は少なくないという氏の実感のもと、社会のニーズに合致した事業であるかを見直し、事業に共感してくれるターゲットへ向けて適切に発信することで、寄附者の掘り起こしの可能性は広がるとのことでした。

そして、市民社会に継続的に支えられる組織づくりを行うことで、完全な自立採算での自立ではなく、「自立」しない自立を目指すことができるなど、息の長い地域活動の実現へ向けた示唆をいただきました。

今後の開催予定(夏季) 受付開始7月2日(木)～

京のまちづくり史セミナー

第4回 テーマ 鴨川の治水事業と都市デザインの変容：
昭和大水害を中心に
日時 7月30日(木) 19:00～21:00
講師 植村善博氏(佛教大学歴史学部教授)

第5回 テーマ 京都の町家と火消衆：
大火と町並みに関連して
日時 8月19日(水) 19:00～21:00
講師 丸山俊明氏(京都美術工芸大学工学部教授)

第6回 テーマ 近代京都の景観整備：
嵐山・嵯峨野イメージの再生と創造
日時 8月28日(金) 19:00～21:00
講師 中嶋節子氏
(京都大学大学院 人間・環境学研究科教授)

第7回 テーマ 近代仏教と都市景観：
アジアと京都のつながり
日時 9月24日(木) 19:00～21:00
講師 山田協太氏
(京都大学地域研究統合情報センター 特任助教)

まちづくり実践塾

第3回 テーマ 京都の地域住民組織：
戦前から戦後の展開
日時 8月5日(水) 19:00～21:00
講師 中井秀和氏(京都市文化市民局くらし安全推進部)

第4回 テーマ 京都市都心部の地域課題：
マンション住民と地域自治組織の関わり
日時 9月9日(水) 19:00～21:00
講師 田中志敬氏(福井大学教育地域科学部講師)

京町家再生セミナー

京町家の“最初の一歩”としての基本講座です。
身近な存在としての京町家の姿を知り、再生の方法などを学びます。

子育て世代と町家の暮らし

【会場】三原家、sumao浜谷家（中京区宮本町）

講師：三原 克敏氏、浜谷 富美子氏（町家居住者）

コーディネーター：朝倉 眞一氏（まちひろば計画工房）



三原氏



浜谷氏

平成27年
3月15日日

町家に暮らす子育て世代で、ご近所同士である、三原克敏さん、浜谷富美子さんに語り手となっただき、子どもの成長とともに変わる町家での子育て、そしてご近所づきあいや地蔵盆などの町の暮らしについて語り合う中で、右記のようなお話をお聞きすることができました。

30軒程度の顔の見える規模であり、三原さんのように町内の大黒柱ともいえる役割を担われている方がいらっしゃる、結束が強く、子育て環境にも良い町内を形成する秘訣の一つだと感じました。



お庭(三原家)



意見交換会(三原家)

- 町家は格子越しに表の通りが見えるためか、ご近所の方のほうで子どものことを良く知っていることもあり、ご近所の方から子どもが親に話にくいことを伝えていただくことがある。
- 仏様へのお供え物や神様の水替えなどの行為を通じて、子どもたちは自然と相手を敬う心を身につけることができる。
- 年配の方やご近所の方と一緒に暮らしていくなかで、町家の使い方や日本の文化を知る機会が得られる。
- 地蔵盆、運動会（足洗い）、女子会、お千度参りなど、年に数回の食事の機会があるため、地域に入りやすく、新しく引っ越して来た若い夫婦にとって、とても心強い。
- 町内に戻ってこられた若いご夫婦に小さいお子さんがいて忙しくされている場合でも、ご夫婦がきちんと地域に溶け込めるように配慮している。

平成27年
3月23日月

京町家、相続・税金の不安解消！

講師：辻本 尚子氏（株式会社みやこ不動産鑑定所代表取締役、税理士、不動産鑑定士）



町家を継承するにあたり、知っておきたい知識のひとつが相続税です。理解を深めるため、参加者の方々にも中京区の町家をモデルとした相続税の算定を行いながら、次のようなアドバイスをいただきました。

各相続人が支払う額は、相続税の総額を実際の相続割合で割り振ったものです。相続税の総額は、課税遺産総額を各法定相続人の法定相続分で算出します。つまり、どのような割合で遺産分割をしても相続税の総額は変わらず、前もって算出しておけば目安となり安心であるとのことでした。

た。法定相続人は範囲と順位があるため、確認しておきましょう。相続税の申告が必要な場合、亡くなった翌日から10ヵ月以内に申告書を提出しなければなりません。この期間に遺産分割協議が整わないと、配偶者控除などの税額控除が受けられないので注意が必要です。

今回は相続税のポイントを実践的に学んでいただいたことで、参加者の方から「相続税に親しみをもてるようになった」との声もあり、安心して町家を次世代に引き継げるきっかけになったと思います。

京町家再生セミナー

第4回 テーマ プロに任せて安心！
京町家、改修工事の進め方
日時 7月26日(日) 13:30～15:30
※15:30～16:30は改修の相談会を実施します。
1組20分間、先着3組
講師 荒木勇氏(株式会社アラキ工務店 代表取締役、NPO法人古家改修ネットワーク 理事長)

第5回 テーマ 町家の維持管理と傷みの早期発見、
庭の手入れの楽しみ方
日時 8月30日(日) 13:30～15:30
講師 大下尚平氏(一般社団法人京町家作事組 理事)
木村孝雄氏(一般社団法人京町家作事組)
会場 らくたび京町家

第6回 テーマ 京町家と相続税
日時 9月30日(水) 19:00～21:00
講師 村井淳一氏(税理士、京都学園大学教授)

【申し込み方法】

- ①セミナー名 ②開催日
 - ③氏名(ふりがな) ④電話番号
- 以上を明記の上、電話・FAX・入力フォームにて「京都いつでもコール」まで申し込みください。

TEL 075-661-3755 FAX 075-661-5855

京都いつでもコール

検索

図書コーナーからのお知らせ

夏休みの企画展示

“総合学習図書で調べよう！身近なことから地球のことまで”

図書コーナーでは、毎月企画展示を行っています。
8月は夏休みのため、児童向けの総合学習図書を特集しています！

- 「住まい方を考える」(全3巻)
- 「くうねるところにすむところ」(続刊)
- 「ぼくたちのまちづくり」(全4巻)
- 「調べよう 学校周辺の自然と環境」(全8巻)
- 「総合学習に役立つボランティア」(全7巻)
- 「はじめてであう点字」(全5巻)
- 「地震なんでも質問箱」(全4巻)
- 「衣食住にみる日本人の歴史」(全5巻)
- 「調べてみよう にんげんの権利」(全6巻)
- 「調べてみよう 世界のために働く国際機関」(全6巻)
- 「めざせ！21世紀の国際人」(全5巻)
- 「災害とたたかう」(全8巻) 他



児童向けの図書です。
お子さま、お孫さまと
ぜひお越しください！

ギャラリートークに参加しませんか？

図書コーナーの前にある
「国宝上杉本洛中洛外図屏風」を
一緒に見ていきます！



5月8日ギャラリートーク
「洛中洛外図屏風の風景」の様子

次回

7月11日(土) 14:00～14:45
「洛中洛外図と祇園祭」

祭を支える具足の衆と見物する人々について
解説します。

※事前申込・参加費は不要です。
当日、図書コーナー前にお集まりください。

これからの計画

10月：時代祭の室町時代列
1月：屏風の中の正月と節分

今後の日程は、京都市景観・まちづくりセンターからの
メルマガやホームページ、「ひと・まち交流館京都」内の
掲示などでお知らせします。

絵本スタンプラリーはじめました！

絵本スタンプラリーを5月か
らスタートしています！絵本や
児童書の貸出しで1日1個、スタ
ンプカードに日付を押します。スタ
ンプが10個集まれば、可愛い
シールを差し上げます。

スタンプカードは図書コー
ナーで配付します。カードには種
類があるので、何回でも挑戦し
てください！

※貸出しには、図書コーナーの利用者カードが必要です。
※お住まいや勤務先が京都市の方が対象です。



図書スタッフお薦め本

「物語 ものの建築史」
(山田幸一監修)

日本建築を、壁・建具・台所・便所・
屋根・門・畳・風呂・窓・床の間・瓦・
座敷の全12冊に分け、その歴史的変
遷や技術の伝播と発展の過程を述べ
るにとどまらず、政治体制の変化や文
化的背景など社会構造との関わりにも触れています。

伝統的な技術の継承についての提言も盛り込まれ、建築
にまつわるエピソードが豊富で、幅広い教養書としても楽し
い読み物です。



私と京都



税理士法人 京都合同会計 税理士
公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター 監事
玉山 秀文

京都に暮らして

京都に住み始めていつの間にか32年が経ちまし
た。子どもの頃に父と、春や秋に京都を旅行してい
たことが親しみを感じる遠因となっていたのでしょ
うか。愛知県から18歳に上洛して以来、鳴滝、御室、
西洞院高辻、紫竹と転居をするなか、「住めば都」
という言葉を実感しています。

鳴滝では初めての一人暮らしを下宿で、共同炊事
場に銭湯といった生活を経験し、御室ではちょっと
独立性をもったアパート住まい、西洞院高辻ではマ
ンションで機能性を重視した暮らし、紫竹では賀茂
川を近くに自然や四季の移ろいを感じる生活といっ
た最近です。

実家に帰省すると自然はたくさんあるのでホッとし
る部分もありますが物足りません。京都は都会の要
素と自然のバランスが絶妙であると実感しその豊か
さに年々魅力を感じています。

年齢を重ね、生活のリズムや地域との関わりが増
えてきました。昔の自分には考えられなかった姿に
驚いています。町内会の役回り、運動会や学区を通
じた時代祭の参加などなど。いろいろな方々とお話

をする機会があります。「どこの学区？」というフレ
ーズは愛知出身の私にはピンと来ないのですが、小学
校や地域を大切にする人々の気持ちを感じずにはい
られません。これは、うらやましく思うとともに、ま
だまだ根付いてないなあ実感します。

まちを愛する気持ちが、町家の保存にもつながっ
ているのでしょう。そこには、生活そのものがありま
す。たまに、テレビなどで「京町家の暮らしと知恵」
に類したテーマを取り上げたものを見ていると感心
するとともに、自分も一部では触れている部分があ
るなあと妙にうれしく感じたりします。

私が京都に住み始めてから、町並みはずいぶん変
化したなあと感じます。すでに市電はなかったのだ
ですが（子どもの時に乗った記憶はあります）、たく
さんの本屋、通っていた銭湯やスーパー、馴染みのお
店などがなくなりマンションが増えました。変化を否
定はしませんが最近では町並みを意識した施策のもと
で京都らしい京都を大切にしているように感じます。
私自身そこに溶け込んだ自然体の生活をしていきたく
いと強く思っています。



スタッフのつぶやき

学生時代を過ごした京都市に5年振りの帰還を果たし
ました。5年前と比べると「こんな所にこんなお店無かつ
た！」という発見が市内随所にあり、京都市は“古きを
温める”歴史的な都市であるだけでなく、今も活発に生
命活動が続けている“新しきを知る”都市なんだと実感
します。一方で昔お気に入りの場所だった糺の森や鴨川
デルタの良さは今も変わらず。ホッとしました。京都は



特に飲食業界の活発さには目を見張るものがあり、
ちょっと気を抜いていると、どんどん新しいお店ができて、
行きたいお店を回りきれなくなりそうに……。三度の飯
より好きなものは無い人間なので、学生時代は（主に経
済的な事情で）果たせなかった飲食店めぐりを、社会
人としては初めて過ごす京都で満喫します！

スタッフS.H.